

新しいカフェテリアの提案について

C1240500 小野寺仁志

テーマ 学外の人にもうらやましいと思われるようなカフェテリアを提案する。

うらやましいと思われるカフェテリア提案のため、まず私は本学にあるカフェテリアで食事、自学などを体験してきた。食事は2時間目終わりのカフェテリアで体験してきた、昼休みなどもあり人が多く券売機の前には行列ができていた。メニューはラーメンやカレーに加え週替わりメニューなど豊富で満足できたが、多くの席が使用されており料理を受け取った後に空き席を探すのに苦労した。結果としてはメニューに関しては種類が豊富で週替わりメニューなどの週の楽しみになるような工夫がされていた。しかし昼休みの多くの利用者に対しては券売機前の混雑や困難な空き席確保など、対応が追いついていないように見られた。次に2階のスペースを利用し自学を行ってきた。時間は3時間目にノートパソコンでレポートの作成。個人的な所感としては自販機とトイレが近いため体調管理がしやすい、学習スペース全体にラジオが流れたりリラックスしながらの学習が可能と考えられた。以上の点から学習空間としての役割を十分に発揮していると推察される。

私はこの体験を経て自分自身の顕在的ニーズ、潜在的ニーズを分析した。顕在的ニーズとしては「券売機前の混雑の緩和」「空き席確保に余裕が欲しい」、潜在的ニーズとしては「ご飯を食べるために待ちたくない」が考えられた。

以上の私自身の顕在的ニーズ、潜在的ニーズを踏まえて、私は飲食スペースのさらなる改善によって学外の人が利用したくなるカフェテリアの提案をする。それは「インターネット予約のできるカフェテリア」である。近年のファミレスなどの飲食店ではインターネットを通じて事前に商品、席を予約するシステムが数多くの店で導入されている。それを本学カフェテリアに応用したらよいのではないか、というのが私が考案したカフェテリアの改善案である。

期待される効果としては、インターネットを介して商品、席の予約が可能となることで本学カフェテリアの問題点である券売機前の混雑を解決、さらに予約した際に時間が指定されることで空き席の確保が容易になる。これにより顕在的ニーズ、潜在的ニーズの両方を解決しつつ、さらに近年の飲食店のシステムに寄せることで新たな顧客が入りやすいカフェテリアになると私は考える。

本論ではカフェテリアの現状、問題点を実際に体験し顕在的ニーズ、潜在的ニーズを塾考しそれを解決するカフェテリアの新たなサービスを提案し、期待される効果を述べた。